



前期人権教育旬間スタートにあたっての校長講話(5/12)より

朝の生徒玄関や廊下ですれ違うときに、皆さんは「おはようございます」や「こんにちは」と、明るく、温かく声をかけてくれます。本当にうれしく、毎日「幸せ」な気持ちになっています。4月の始業式で話した「**幸動力**」が皆さんにはあると感じています。幸動とは、自分の欲求を満たすためだけではなく、**誰かの幸せのために考えて行動すること**です。誰かが自分を必要としてくれている、人の役に立てていると感じられると、人は「幸せ」を感じられるので、「**みんなの幸せ**」が「**自分の幸せ**」になります。では、**自分ができる周りの人を幸せにする考動**には、**具体的にどんなものがあるか**考えてみましょう。 ～座席のグループで相談～



始業式で話した「**認め合い、支え合い、高め合い**」を意識して生活をしていますか。まずは「認め合い」のために、**周りの人、友達の良いところを見つけること「いいところみつけ」**からスタートしましょう。私はこの1ヶ月で、皆さんのよいところ、素晴らしいところをたくさん見せていただきましたが、みなさんにはもっともっと良い面があると思っています。また、「**受援力**」の話もしました。**困ったときには「聞いて」「助けて」「手伝って」を当たり前と言える仲間、そして、頼られたときには、その人を「支え合える」仲間づくり**をしてほしいともお願いしました。



さて、今回の校長講話では、「**人権を守ること**」について、皆さんと一緒に考えます。

人権とは、「**すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利で、生まれながらに持つ権利**」です。では、**人権を侵害する行為、人権を傷つけてしまう行為**には、どんなものがありますか。「**戦争」「暴力」「差別**」そして「**いじめ**」…



これは、今から11年前、平成26年度の生徒会によってつくられた「いじめ撲滅宣言」です。東階段の踊り場のところに掲げられています。北中生は、このように、以前から自分たちの力でいじめ問題に取り組むことを決意しています。すごく誇り高い宣言だと思います。

この宣言のように「**いじめをはじめ、人権を傷つける行為は許さない。**」とみんな、わかっています。しかし、世の中でも身の回りでも人権を傷つけられて悲しい思いをしている人がいます。なぜだろう。

ここで昨年の「第43回全国中学生人権作文コンテスト」で内閣総理大臣賞をとった京都府亀岡市立育親学園8年生の寺竹 瑠音さんの人権作文を紹介します。タイトルは「悪口」です。

～人権作文「悪口」の朗読～ (出典:法務省 全国中学生人権作文コンテスト HP)

皆さんはこの人権作文を聞いてどんなことを感じたでしょうか。

～グループで感想を言い合う～

どうでしょうか、皆さんにもこのようなことはあるのではないのでしょうか。自分は**周りに合わせただけ**だった。みんなを**盛り上げよう**と**しただけ**だった。でも、それで**相手を傷つけて**しまっていることがあるかもしれません。



言葉は自分の口から出てしまった後、ネットへ書き込んだ後には、もう回収ができません。本当に言ってもいいのかな？ やってもいいのかな？これを聞いたら相手はどういう気持ちになるのだろう？と、いったん立ち止まって考えて、想像してから言葉にする、行動することが大切ではないでしょうか。

普段から「幸動力」を意識して、相手のことを思いやる行動、温かな言葉がけができる人、友だちと支え合って物事にに取り組むことができる人が溢れる学校、「認め合い、支え合い、高め合う学校」を全校の皆さんで目指してほしいと思っています。



生徒の皆さんの感想より(一部抜粋)

- ネットはとても簡単で便利ですが、それと引き換えに、とても危ういものだと自分は思っています。ネットは現実よりも簡単に悪口を吐いてしまえます。実際に会って言うことはできないのに、ネットだと強がってしまいます。それが「いじめ」につながってしまうと思いました。
- 自分が言われて嬉しい言葉は、「頑張って」「ありがとう」「おはよう」などの言葉を言われると、朝から気分が良くなって幸せな気持ちになる。だから自分も、そのような言葉をみんなに言えるようになりたい。人権作文を聞いて、悪口はとても凶器になると思った。
- 幸動力について周りの人と話し合えたし、受援力については、人を助けたいと感じた。自分が思いつかなかったことを友だちが発表していて、いい意見だなと感じた。自分の意見や考え、友だちの意見や考えを大事にしていきたいと思った。
- 人の悪口を言うときはあるけど、自分が悪口を言われていたら嫌だなと思うし、そんなふうに思われていたんだ…と落ち込むと思うので、人の悪口大会が始まりそうなときに、さりげなく話題を変えられるような人になりたいと思いました。
- 「悪口」という話を聞きながら、昔の自分を振り返ると、自分も他の人の悪口を言いながら話したりしていたのを思い出した。悪いことなのにと分かっていながら友だちとの仲を壊したくなくて話にのったりしてしまっていた。旬間をきっかけにいろんなことを改善していきたいです。
- 一番思ったことは相手のことを思いやることが大事だと思いました。自分が嫌なことはやらないとか言わないってことは、意識してやった方がいいと思いました。自分が冗談だと思って言ったことも相手が本気だと思ったら悪口になってしまうから、自分の言葉には責任を持った方がいいと思いました。
- 作文の作者と同じような経験をしたことがあるから、すごく心に響いた。心の中で思っているのは自由だし、誰にも害を与えないけど、それを口に出して言うという行動は、誰かに害を加えることになるから絶対にしたくないと思う。3年間生活を共にする仲間なら仲良く幸せにやっていきたい。だからこそ今日聞いたこと、そして幸動力を大切に、日々の生活を1日1日より良いものにしていきたいと思う。
- 作文を聴いて、とても身近に感じたり、自分も意識しようと改めて思ったりしたことから、今年の人権旬間は過去の旬間より「人権」というものを深く深く考え、幸動するものにしようと思う。北中生だということを忘れずに、言葉を正しく使い、どんなに小さな会話でも冷静な自分を必ず心に置き、過ごしていきたい。「人権」や「幸動力」を大切にすることで生まれる「楽しさ」や「平和」のために意識して生活したい。
- 悪口を言う前に、その人の長所も見つけれたら、陰口も減るのではないかと考えることができた。人に優しくしたい。
- 人権作文を聴いて、悪口は誰でも簡単に言うことだから、そう考えると、簡単に人権を侵害してしまうことに気づいたし、気をつけようと思った。悪口とかではなく、相手や人々を幸せにできる「幸動力」を意識して生活したいと思った。
- 悪口は相手を傷つけてしまう言葉だが、自分たちはそれを簡単に言うてしまう。悪口は場の雰囲気や気持ちが高まることでエスカレートしてしまうことが分かった。
- 人権って深いなと思いました。悪口を言うのはいけないってよく聞くけど、人なんだから合う合わないもあるし、悪口を言わないって難しくない？ってずっと思っていました。でも、今日の作文を聴いて、悪口を面白おかしく言うことがダメと言うことが分かった気がします。普段気を遣わない所もよく考えて行動したいです。
- 自分の口から出た言葉が他人にどういうことを思わせるのかっていうのを考えて生活していきたいと思った。確かに友達とある人の悪口を言うのは、なぜだか分からないけど、団結力を高めたりしてしまう気がする。かといって、この団結力も作文で言ってたけど、もろくて歪んだものだと思う。だから、まずは悪口を言わない、友達と共有しないというのを第一にして、言葉を発する前にこれは本当に言っているのか考えたい。

